

## 「応用心理学研究」投稿・執筆規程

### 【全 般】

1. 本誌は、日本応用心理学会の機関誌として、学会員の応用心理学に関する未公開の研究成果を原著、資料、総説、短報、実践、その他に区分して掲載する。
2. 本誌は、英文による掲載を認める。英文の投稿・執筆規程は、邦文の投稿・執筆規程に準じる。
3. 投稿は、連名者を含めて会員（正会員、名誉会員、終身会員）に限る。
4. 投稿の際には、連絡先（住所、電話・ファックス番号、Eメールアドレス）を明記した文書を作成し、投稿論文と一緒に編集委員会・事務局へ書留郵便で送付する。
5. 原著、資料、総説の各論文および実践報告は、図、表を含めて本誌6～10ページ以内に収まる分量で作成する。なお、機関誌の1ページは1,978文字（1行23文字で43行、2段組）であることを付記する。
6. 短報は、図、表を含めて本誌見開き2ページとする。なお、短報の1ページは2,444文字（1行26文字で47行、2段組）であることを付記する。
7. 論文はワードプロセッサで作成し、A4判の用紙に印刷する。図、表も本文中の適当な位置に配置すること。
8. 提出原稿は4部とするが、論文審査の際に著者名と所属機関名を伏せるため、提出する4部のうち2部は表題のみとすること。なお、投稿の段階では、指導教授等に対する論文指導の謝辞は記さないこと。

### 【最初のページ】

1. 最初のページには、表題、所属機関名、著者名を記述し、その下に表題の英訳、著者名のローマ字書き、所属機関名の英訳とその所在地のローマ字書きを一括して記す。できればEメールアドレスも記載すると望ましい。
2. 所属機関名は正式名称を記述する。大学の場合には学部、学科名を記す。また所在地については、外国の研究者からの郵便物が確実に届くように、すべての著者についての所属機関の所在地、郵便番号などを次の例のように示す。  
Department of Psychology, Faculty of Arts, Shinshu University,  
3-1-1 Asahi, Matsumoto-shi, Nagano 390-8621, Japan
3. 著者名が連名の場合には、原則として研究分担度が大きかった研究者から順に並べる。単なる補助者、部分的協力者の場合には、必要があれば脚注において説明する。また、著者名とその所属機関の対応が明確になるように工夫する。
4. 脚注は、本文の欄外に印刷される。表題や本文中に脚注番号を示す場合、右肩に上付1/4角数字で示す。脚注で示す主な例として、研究助成元の紹介、研究協力者に対する謝辞などがあげられる。
5. 原則としてすべての投稿論文には、100～175語の英文アブストラクトとその日本語訳を付ける。ただし、短報の英文アブストラクトは100語以内とする。原著、資料、短報については目的、方法（手続き、対象者、人数を含む）、結果、考察が含まれていなければならない。実践報告は、この限りでない。英文については、投稿前に必ず専門家に目を通してもらうこと。日本語訳については、直訳ではなく著者の意図を平易な日本語で述べたものとする。
6. 英文アブストラクトの下にその論文の分類、検索のための英語のキーワードを3～5項目付ける。キーワードは必ずしも英文アブストラクトの中から抽出しなくともよい。また略語は使わないこと（例：IQ→×; intelligence quotient→○）。

### 【本 文】

1. 原著、資料、短報の構成は、問題、方法、結果、考察の各部分から成り立ち、最後に引用文献リストを付けることを原則とする。

2. 本文中の見出しは、通常「中央大見出し」「横大見出し」および「横小見出し」の3種類が用いられるが、一部を省略しても良い。細目は次のとおりであり、いずれもボールド体で印字する。
- 中央大見出し：誌面の左または右コラムの中央に書く。その下は1行あけて書き、ピリオドは付けない。  
例) 実験, 調査, 全体的(総合的)考察, 引用文献など
- 横大見出し：上に行をあけず、ピリオドは付けない。そして本文は改行して始める。  
例) 目的, 方法, 結果, 考察など
- 横小見出し：上に行をあけず、左端から1文字あけて書く。ピリオドを付けずに1文字あけて本文を続ける。  
例) 被験者, 装置, 手続きなど
3. 見出し以外に区分を示す方法として次の2つがある。
- ①段落に序列を付ける場合には、1. 2. 3. …と算用数字を用い、順次改行する。  
②文章中あるいは段落内で序列を付ける場合には、(a), (b), (c) …と改行せずに続ける。
4. 句読点については、終止符はマル(。), 語句の切れ目はコンマ(,)を用いること。また、並列する同種の語を列挙する場合、あるいは外国語の片仮名書きをつなぐ場合には、中黒丸(・)を用いる。
5. 数字は原則として算用数字を用いる。計算単位は、原則として国際単位系(SI)を用いる。
6. 文献の引用は次のようにする。
- ①文中の場合：“荻野(2004)は…”, “稲毛・垣本(2000)によれば…”  
“Dobson & Mothersill (1979)は…”
- ②文末の場合：“…である(荻野, 2004)。”, “…(稲毛・垣本, 2000)。”  
“…(Dobson & Mothersill, 1979)。”
- ③著者が3人以上の場合：初出の際には全著者の姓を書く。2度目以後は、日本語の場合第1著者の姓を書き、その他の著者は“他”と略す。欧語の場合には“et al.”とする。  
例) “細江他, 2003”, “Dobson et al.”
7. 図, 表, および写真は著者の責任で作成し、本文中に組み込んで提出する。幅は本誌1ページの半幅、または全幅に収まるように工夫する。表の番号はTable 1, Table 2のように算用数字で通し番号を付け、簡潔な題を付けて表の最上部におく。また図, 写真についてはFigure 1, Figure 2と通し番号を付け、題を付けて図の最下部におく。
8. 優れた研究の引用は、図の引用である場合が少なくないとされる。著者は先行研究における優れた図なども参考にして良い図を作成してほしい。

### 【引用文献】

1. 引用文献は最後に一括して記述する。文献番号は付けず、日本語文献と外国語文献を分けず、著者の姓のアルファベット順に配列する。同一姓が複数存在する場合には、名のアルファベット順で配列する。
2. 同一著者が単独で発表している文献と、その著者が第1著者となる連名の文献とがある場合には、単独発表の文献を先に配列する。
3. 同一著者による単独発表文献が複数ある場合には、刊行年次の早いものから配列し、さらに同一年次に複数刊行されている場合には、年次を示す数字の直後にアルファベット小文字 a, b, …を付して区別する。
4. 文献内容の記載は、次のような順番で行う。
- ①雑誌の場合：著者名, 刊行年次, 表題, 雑誌名, 巻数, ページ  
欧文雑誌の場合は、雑誌名をイタリック体, 巻数をボールド体で記す。
- ②書籍の場合：著者名, 刊行年次, 表題, 版数, 出版社名  
欧語書籍の場合は、出版地も明記し、表題はイタリック体で記す。
5. 欧語文献の場合、固有名詞, ドイツ語の名詞以外は、表題の最初の語の語頭のみを大文字で表記する。
6. 印刷公刊されることが確定しているが未刊の場合には、刊行年の予定を記し、末尾に“印刷中”あるいは“In press”と明記する。

7. オンライン・ジャーナル，あるいはウェブページからの引用の場合には，上記4の逐次刊行物（雑誌・書籍）からの引用と同様に表記し，最後に入手先のウェブアドレスを付記する。
8. 代表的な表記例を以下に紹介する。
- ・浅井邦二 1976 適性の評価について 早稲田大学心理学年報, 8, 1-5.
  - ・長塚康弘 1985 事故傾性, 疲労および単調感と反応時間 人間工学, 21, 71-79.
  - ・荻野七重・斉藤 勇 1998 社会的欲求と性格との関係(4) 日本応用心理学会第65回大会発表論文集, 194.
  - ・所 正文 2002 働く者の生涯発達: 働くことと生きること 白桃書房.
  - ・大山 正・丸山康則(編著) 2004 ヒューマンエラーの科学 麗澤大学出版会.
  - ・内藤哲雄 1994 個人固有の態度を測る一態度の心理学 浅井邦二(編著) ころの測定法: 心理学における測定の方法と課題 実務教育出版 pp. 172-193.
  - ・岡村一成 2007 職場のコミュニケーション 日本応用心理学会(編) 応用心理学事典 丸善株式会社 pp. 484-485.
  - ・デシ E. L. 安藤延男・石田梅男(訳) 1980 内発的動機づけ 誠信書房 (Deci, E. L. 1975 *Intrinsic motivation*. New York: Plenum Press.)
  - ・総務庁 2004 交通安全白書(平成16年版)
  - ・大塚博保 1983 科警研編運転適性検査73型の性格要素検出部分の妥当性検討 科学警察研究所報告(交通編), 24(1), 87-96.
  - ・内藤哲雄 1997 同化行動の理論と実証研究 早稲田大学大学院人間科学研究科博士論文(未公開)
  - ・土堤内昭雄 2003 コミュニティビジネスがもたらすスローライフ: 21世紀の新たな価値社会へニッセイ基礎研レポート 2003年4月号, 1-8.  
(<http://www.nli-research.co.jp/trust.html>)
  - ・Cronbach, L. J., & Snow, R. E. 1977 *Aptitudes and Instructional Methods*. New York: Irvington.
  - ・Rabbit, P. M. A. 1963 Age and discrimination between complex stimuli. In Welford, A. T., & Birren, J. E. (Eds.), *Aging and the Nervous System*. Illinois: Springfield, pp. 35-53.
  - ・Kahneman, D. 1973 Relation of a test of attention to road accidents. *Journal of Applied Psychology*, 57, 113-120.
  - ・Yoshida, S. 2002 Observational study of drivers' lighting behavior at dusk: Psychological threshold and effects of passing tunnels, XXV International Congress of Applied Psychology (Singapore), CD-ROM containing the abstracts.
  - ・Matsuura, T. 2004 The effect of drivers training on accidents and traffic offences, International Conference on Traffic and Transport Psychology (Nottingham, UK), 139. (Abstract)
  - ・Treat, J. R., Tumbas, N. S., McDonald, S. T., Shinar, D., Hume, R. D., Mayer, R. E., Stansifer, R. L., & Castellon, N. J. 1977 Tri-level study of the cause of traffic accidents. Report No. DOT-HS-034-3-535-77 (TAC), Indiana University.
  - ・Yerkes, R. M. 1919 Report of the Psychology Committee of the National Research Council. *Psychological Review*, 26, 83-149.  
(DuBois, P. H. 1970 *A History of Psychological Testing*. Boston: Allyn and Bacon, Inc., p. 62より引用)
  - ・Tokoro, M. 2005 The shift towards American-style human resource management systems and the transformation of workers' attitudes at Japanese firms, *Asian Business & Management*, 4, (In press)

#### 付則

1. 本規程は，平成19年4月1日より施行する。